

(2) 子供の特徴と心理機制

- ① 口もきかず行動も抑制的で、おどおどしている。緊張感が強いと発汗することもある。
- ② 集団にうちとけず、表情や態度が硬く、動作にぎこちなさがある。
- ③ 授業中じっと座っているだけで、体育の参加やノートとりなどもしない。
- ④ 休み時間でも、うろうろしているだけで、友人との遊びに参加しない。
- ⑤ 心理的な圧迫を感じると緊張が強く、体が硬直する。

以上のような行動特徴が見られるのは、しゃべらないことによって、心理的な安定をはかっているためであり、それは、次のような防衛機制が働いているからだと考えられる。

- ① 体がこわばって、硬くなったり発汗して心理的に緊張しているが、その緊張を硬直という形で守り、自分の内なるものを守り続けようとする。
- ② しゃべらないことで相手を困らせ、自分を守ろうとする行動をとり、攻撃しようとしている。
- ③ 緘黙することで、自分の心の状態を見せまいとしているが、周囲のようすはよく知っており、無表情をよそおうことによって自己安定をしている。
- ④ 知的、身体的劣等感を緘黙することで解消しようとしている。
- ⑤ 新しい経験を取り入れることに不安を感じ、不安解消の手段として、すでに学習した生活様式を守り続けて安定しようとする。

このようにして心理的安定をはかり、自分の世界を守りきっているものと思われる。

(3) 原因

場面緘黙の一般的な発症原因を調べてみると、次のようなものがあげられる。

- ① 知能が低いと、学業成績がふるわず、強い劣等感に悩まされ、集団場面に適応できないでいる。
- ② 生活経験の貧困から、精神発達がおくれ、集団に参加する技術が未熟